



北海道

オホーツク 2019

Outline of Okhotsk

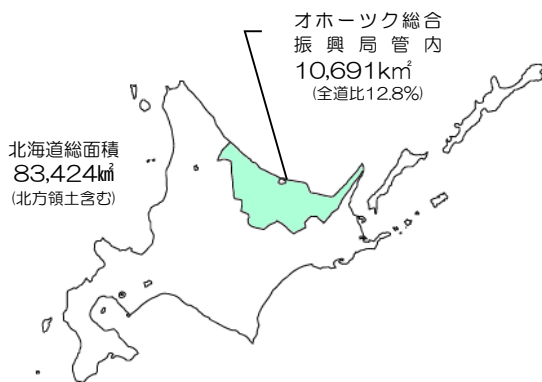
オホーツクの概要

—OUTLINE—

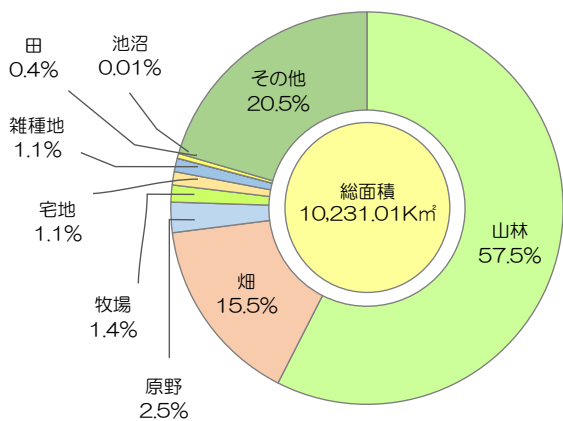
オホーツク地域（オホーツク総合振興局管内）は北海道の北東部にあって、オホーツク海と280kmの海岸線で接しており、総面積は、10,691km²と全道面積の12.8%を占め、岐阜県を上回る広さに約29万人が暮らしています。

気候は冬期間の寒さは厳しいものの、比較的穏やかで、年間平均降水量は800ミリ前後と少なく、北見市など一部地域は日照時間にも恵まれています。

また1月下旬から3月にかけて、オホーツク海特有の流氷により海面が覆われるという、他の地域には見られない特色を持っているほか、世界的にも貴重な原始の自然をそのまま残す「知床世界自然遺産」をはじめとした、豊かな自然景観に恵まれています。



地目別土地利用面積



（総務省「固定資産概要調査」（平成30年1月1日現在））

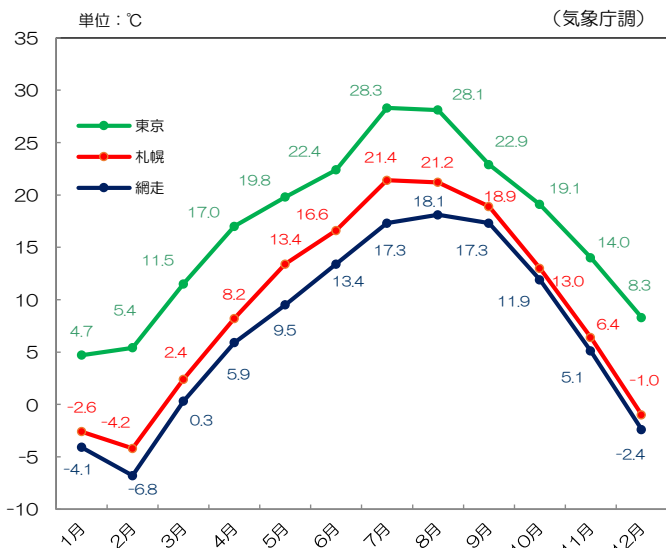
管内と他県の面積比較

順位	県名	面積(km ²)	【参考】人口(人)
1	岩手県	15,275	1,279,594
2	福島県	13,784	1,914,039
3	長野県	13,562	2,098,804
4	新潟県	12,584	2,304,264
5	秋田県	11,638	1,023,119
	オホーツク管内	10,691	293,542
6	岐阜県	10,621	2,031,903
7	青森県	9,646	1,308,265
8	山形県	9,323	1,123,891
9	鹿児島県	9,187	1,648,177
10	広島県	8,480	2,843,990
参考	北海道	83,424	5,381,733
参考	東京都	2,194	13,515,271

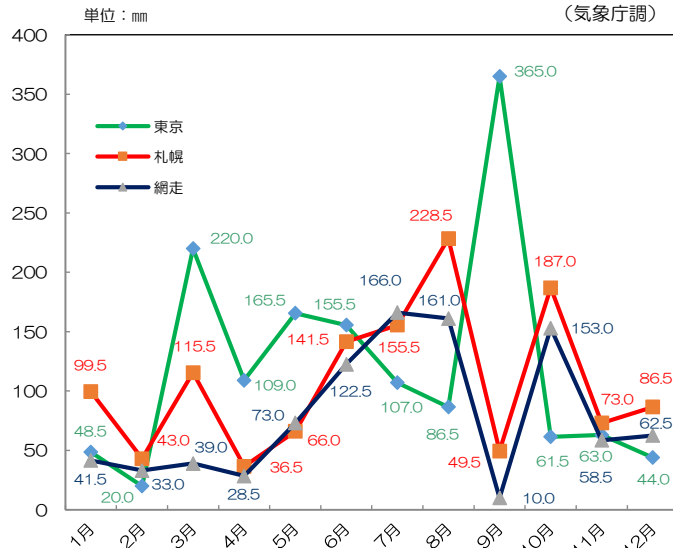
（国土地理院「平成30年全国都道府県市区町村別面積調」、総務省「平成27年国勢調査」）

気象

■ 月別平均気温(平成30年)



■ 月別降水量(平成30年)

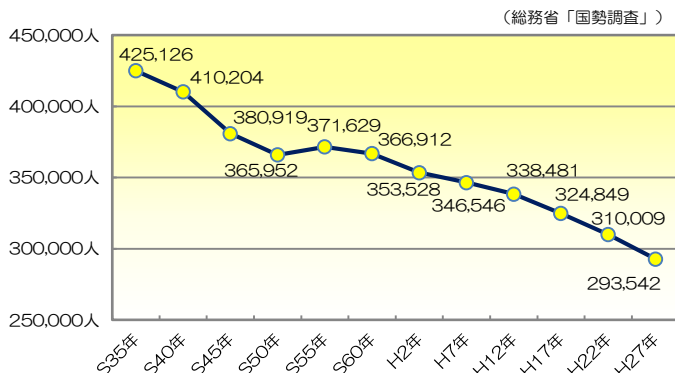


オホーツクの概要

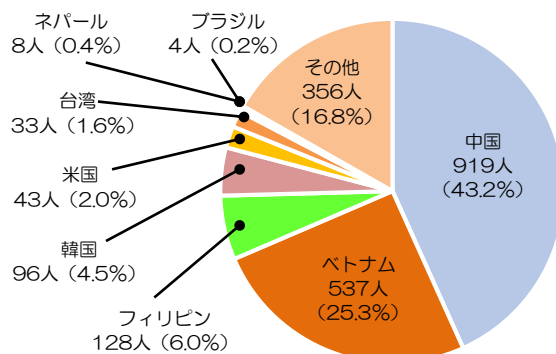
—OUTLINE—

人 口

■管内人口の推移



■管内在留外国人国籍・地域別人員



(法務省「在留外国人統計」(平成30年6月30日現在))

流 氷

11月上旬頃、オホーツク海の北部・アムール川の河口で氷の結晶(晶氷)が現れ始めます。この後、晶氷はだんだん増え、流水へと成長しながら南下し、やがて沿岸部に発生している「道産子氷」と合流して、概ね1月下旬から3月の中ごろまで、北海道・オホーツク地域の沿岸で見ることができます。流水は、近年地球温暖化等の影響により減少してきています。



シンボルマーク

オホーツク地域にお住まいの方や企業、団体が無料で使用できる、地域限定のシンボルマークです。特産品のパッケージや観光パンフレットなどに掲載され、オホーツクのPRに一役買っています。

■オホーツクール



オホーツク18市町村で組織するオホーツクイメージ戦略推進委員会は、地域の魅力を国内外の多くの方に知っていただき、観光、物産、移住定住など様々な形で地域活性化につなげる

ためのイメージ発信事業を2017年度からスタートしました。オホーツクは、世界自然遺産知床に代表される類い希な自然を有し、日本の食糧基地・北海道の中でも農業産出額は全道2位、漁業生産額全道1位と豊かな食資源を誇り、さらに木材・木製品出荷額も全道1位と多面的な魅力をもつエリアです。従来のイメージをよりポジティブに強化し、多彩なオホーツクの魅力を伝えるための新イメージコンセプトを「オホーツクール」と決定しました。

■オホーツクブルー

オホーツク地域在住の各分野の専門家からなる「オホーツク・シンボル委員会」において、歴史・歴史・芸術・自然現象などさまざまな観点から、「最もスタンダードなオホーツクブルー」について検討を重ねました。各委員のイメージサンプルによる9色と、一般公募からイメージした1色の計10色を混ぜ合わせて、この「オホーツクブルー」が出来上がりました。(プロセスカラー(CMYK値):シアン(C)60%、マゼンダ(M)20%)

■つくつくオホーツくん



オホーツクの素晴らしさを知っていただくため、上から「天力・地力・人力」のオホーツク力を表すキャラクターと、澄み渡る空・オホーツク海の「オホーツクブルー」を表わすロゴを制定しました。

デザインは、津別町在住で著名なアーティスト・大西重成さんが担当し、名称は網走支庁(当時)管内の小学生から募集し、6,000人を越える応募の中から決定しました。「運がつく」「力がつく」の「つく」と、「オホーツク」の「ツク」をかけています。

■オホーツク・ロゴマーク



東京都のデザイナー須賀裕明氏が考案したこのロゴマークは、北海道と「オホーツク」のラインを「オホーツクブルー」で表現しています。メインモチーフのサケの尾の部分で、みずみずしい「新芽」をかたどり、「海」「農」「林」などの豊かな資源や自然の魅力(観光)に溢れたオホーツク地域を象徴するとともに、植物が大地から大空に向かって芽生え、成長していく力強いイメージから、「新鮮な活力に満ちたオホーツク地域」、「将来へのさらなる発展」などをシンボライズしています。

オホーツクの概要

—OUTLINE—

地域指定の状況

海外姉妹都市提携市町村

	地 域 開 発 等 の 指 定									
	過疎	山振	辺地(地域数)	特豪	自公	農振	低開	特農	拠点都市	多極
北見市 (北見市)		S48	1			S45	S38		H6	
(端野町)	H18					S46	S38		H6	
(留辺蘆町)		S48	3			S47	S38	H5		
(常呂町)			5		網走国定公園	S46	S38			
網走市			9		網走国定公園	S45	S38		H6	
紋別市	H14	S48				S45	S38	H5		H4
美幌町	H26		8		阿寒国立公園	S46	S38		H6	
津別町	H2	S43	1	S54	阿寒国立公園	S45		H5		
斜里町			5		知床国立公園 網走国定公園 斜里岳立自然公園	S45				
清里町	H2	S44		S54	阿寒国立公園 斜里岳立自然公園	S45				
小清水町	H2				阿寒国立公園 網走国定公園	S45				
訓子府町	H2		4			S45	S38			
園戸町	H2	S44				S47		H5		
佐呂間町	H12		7		網走国定公園	S46	S38			
遠軽町 (生田原町)	H17	S45				S47		H5		
(遠軽町)		S47				S48	S38			H4
(丸瀬布町)	S41		S54			S47		H5		
(白滝村)	S41		S54			S47		H5		
湧別町	H22									
(旧湧別町)	(H2)	S48			網走国定公園	S48	S38			
(上湧別町)	(H2)					S46	S38			
滝上町	H2	S42		S54	天塩岳立自然公園	S46		H5		
興部町	H2	S45		S54		S45	S38	H5		
西興部村	H2	S43		S54	天塩岳立自然公園	S47		H5		
雄武町	H12	S46	1	S54		S47		H5		
大空町	H18									
(東藻琴村)	(H12)				阿寒国立公園	S45				
(女満別町)	(H2)				網走国定公園	S45	S38		H6	
該当市町村数	16	11	8市町村 44地域	7	12市町村 5公園	18	10	9	4	2

市町村名	姉妹提携都市名	国名	提携年月日
北見市	エリザベス	アメリカ (ニュージャージー州)	1969.6.12
	ポロナイスク	ロシア (サハリン州)	1972.8.13
	晋州	韓国 (慶尚南道)	1985.5.16
	バーヘッド	カナダ (アルバータ州)	1991.7.4
網走市	ポートアルバーニ	カナダ (ブリティッシュコロンビア州)	1986.2.9
紋別市	ニューポート	アメリカ (オレゴン州)	1966.4.8
	コルサコフ	ロシア (サハリン州)	1991.1.12
	フェアバンクス	アメリカ (アラスカ州)	1991.2.8
美幌町	ケンブリッジ	ニュージーランド (ワイバ地区)	1997.10.12
津別町	二水郷	台湾 (彰化縣)	2012.10.8
清里町	モトエカ	ニュージーランド (タスマン地区)	1997.9.7
佐呂間町	パーマ	アメリカ (アラスカ州)	1980.10.28
遠軽町	バストス	ブラジル (サンパウロ州)	1972.10.18
	モアツ・ツ・モツタ・ニコ	フランス (フランシュ・コンテ州)	1998.5.22
湧別町	ホワイトコート	カナダ (アルバータ州)	1998.7.17
	セルウィン	ニュージーランド (カンタベリー地方)	2000.7.14
興部町	ステットラー	カナダ (アルバータ州)	1990.6.26

(オホーツク総合振興局調(平成31年1月1日現在))

(オホーツク総合振興局調(平成30年12月31日現在))

※地域指定は、次の各法律に基づく。

過 疎：過疎地域自立促進特別措置法	低 開：低開発地域工業開発促進法
山 振：山村振興法	工 配：工業再配置促進法
辺 地：辺地に係る公共的施設の総合整備のための財政上の特別措置等に関する法律	特 農：特定農山村地域における農林業等の活性化のための基盤整備の促進に関する法律
特 豪：豪雪地帯対策特別措置法(特別豪雪地帯)	拠 点 都 市：地域拠点都市地域の整備及び産業業務施設の再配置の促進に関する法律
自 公：自然公園法、北海道立自然公園条例	多 極：多極分散型国土形成促進法
農 振：農業振興地域の整備に関する法律	

オホーツクの北海道遺産

- ワッカノ小清水原生花園**
網走国定公園の区域に指定されているワッカ原生花園は、幅200m~700m、約20kmに及び砂州に広がっており、別名「龍宮街道」とも呼ばれる日本最大の海岸草原です。小清水原生花園は、一時期、花が衰退しましたが、1993年から野焼きや球根の植栽、帰化植物の除去を行い、再び花のあふれる公園によりみがえりました。
- ピアソン記念館**
ピアソン記念館は、アメリカ人宣教師G. P. ピアソン夫妻の私邸として1941年に建てられました。夫婦は道内各地を伝道し、その終着としてアイヌ語で「地の果て」を意味する野付牛(現在の北見市)を選び、この地で、略註付日・旧約聖書の出版などを行いました。廃娯運動や慈善活動など、夫婦の志は今も北見の精神文化のよりどころとして親しまれています。
- 森林鉄道蒸気機関車「雨宮21号」**
「雨宮21号」は東京・雨宮製鉄所で製造された初の国産11トン機関車です。1928年、丸瀬布―武利意森林鉄道に配置され、国有林から伐り出した丸太や生活物資の搬送に携わってききましたが、1961年に廃止となり、地元の強い要望で1976年、北見営林局から町に譲渡されました。現在も「森林公園いこいの森」で走っており、動態保存は全国で唯一です。
- オホーツク沿岸の古代遺跡群**
オホーツク沿岸地域では、縄文、続縄文、オホーツク文化、アイヌ文化まで各時代の遺跡が分布し、白滝村など内陸部では、旧石器時代の遺跡が多くみられます。オホーツク沿岸の遺跡は樺太・シベリアなど大陸諸文化との関係が強く認められ、竪穴式住居が連続として残る常呂遺跡、オホーツク文化遺跡として著名なモヨロ貝塚、縄文後期の朱円周堤墓などが代表格です。
- 流水とガリンコ号**
冬のオホーツク沿岸に押し寄せる海の邪魔者を逆手に取った流水観光。流水研究国際都市を宣言している紋別市では、アラスカの油田開発用に試験的に作られた砕氷船を「ガリンコ号」と名付け、流水の海へ乗り出しました。また、沖合1kmのオホーツクタワーでは、海底7.5mからの流水観光や流水下のさまざまな生態を観察することができます。
- 屯田兵村と兵屋**
屯田兵は明治8年の札幌郡琴似村に始まり、開拓と軍備のため、1899年の士別、剣淵まで道内各地に37の兵村が置かれました。管内では、湧別町に当時の区画の北兵村地区と南兵村地区が残っており、屯田兵の歴史や人々の暮らしがわかる郷土博物館も設置されています。また、北見の信善光寺には、屯田兵人形75体が祭られています。
- 北海道の集治監**
北海道は北方という地域性から、明治期より集治監(国立刑務所)の設置が集中し、樺戸(月形町)、空知(三笠市)、釧路(標茶町)、網走(網走市)、十勝(帯広市)の順に建設され、囚人の労働・使役が北海道の内陸開発を推し進めました。管内では、網走市にある博物館網走監獄において、今も当時の施設や道具類を見ることが出来ます。